

第5回（仮称）
第3次都心まちづくり計画検討会

議 事 録

日 時：2025年9月30日（火）午前10時開会
場 所：札幌市民交流プラザ 2階 SCARTSスタジオ1・2

1. 開 会

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

定刻となりましたので、ただいまから第5回（仮称）第3次都心まちづくり計画検討会を開催いたします。

本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日の事務局を務めます札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室の伊関でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、配付資料の確認をさせていただきます。

お手元に配付しました資料は、次第、資料1の座席表、資料2の（仮称）第3次都心まちづくり計画検討会委員名簿、資料3の計画検討会資料、資料4の第3次都心まちづくり計画の素案です。

続きまして、本日の委員とオブザーバーの皆様の出欠状況をご報告させていただきます。

初めに、人事異動に伴いまして本日が初回のご出席となります委員の方をご紹介しますいただきます。

お名前を読み上げますので、ご着席のまま、ご一礼をいただければと思います。

株式会社日本政策投資銀行北海道支店次長の酒井武知様です。

また、本日、愛甲委員、内川委員、渡邊委員、オブザーバーの草野委員はご都合によりご欠席いただいております。

なお、草野委員におかれましては、北海道開発局札幌開発建設部都市圏道路計画課長の尾野定巳様に代理でご出席いただいております。

続きまして、事務局を務めます札幌市都心まちづくり推進室です。

また、事務局補助として業務受託者の株式会社ノーザンクロスが同席しております。

なお、報道各社におかれましては、この後の写真・映像等の撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。

また、本日の検討会について、個人に関する情報など非公開情報を除きまして、会の次第、出席者氏名、発言者等を記載しました議事録を作成し、公表しますので、ご了承ください。

それでは、村木座長に以降の会議の進行についてお願いしたいと思います。

村木座長、よろしくお願いいたします。

2. 第5回検討会資料説明

○村木座長

早速、議事に入らせていただきます。

次第に従いまして、事務局から資料説明をお願いいたします。

○事務局（杉原推進担当係長）

都心まちづくり推進室の杉原です。

私から、20分前後のお時間をいただき説明させていただきます。少々長くなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

お手元の配付資料3の説明資料で全体像やポイントを補足しながらも、配付資料4「第3次都心まちづくり計画（案）」の章立てに沿って概要を説明させていただきます。計画案が全部で130ページを超えるボリュームとなっておりますので、ポイントを絞って進めていきます。

ご覧いただく資料が行ったり来たりすることもあるかと思いますが、投影される画面も手掛かりにお聞きいただければと思います。

なお、委員の皆様には事前にお送りした資料から一部修正がございますので、あらかじめご了承ください。

まず、配付資料3の2ページをご覧ください。

改めて、本計画検討のスケジュールをお示しします。

この検討会本体は、前回、6月に実施したところです。第一部会は9月16日に第5回を実施し、成果指標や目標2に関する本書の書きぶりについてご意見をいただいたところです。第二部会は、この後、10月20日の開催を予定しております。

本日の検討会以後の流れとしましては、本日本日いただいた意見を反映の上、庁内の合意形成、議会報告、パブリックコメントに進んでまいります。その過程で出ました修正や進捗に関しましては、適宜ご連絡させていただきながら、2月頃にもう一度、本会を開催し、正式に策定へ

と進めてまいりたいと思っております。

3ページをご覧ください。

ここから、計画書の中身について、順に説明させていただきます。

まず、こちらが計画全体の構成となります。

以降の計画書の説明時に、全体におけるどの部分の話をしているのかは、このページで確認していただければと思います。

配付資料4、以降は「本書」と言わせていただきますが、そちらでは4ページ、5ページに掲載しております。

続きまして、横版説明資料の4ページ、又は本書8ページ、9ページをご覧ください。

序章においては、本計画における大きなポイントとなる従来の「都心まちづくり計画」と「都心エネルギーマスタープラン」の統合の意義について打ち出します。

そこでまず、計画ができるより前の1970年代頃から、札幌市としてはどのような取組を行ってきたのか、年表形式で、イラストを交えながら変遷をお示しし、今回の第3次計画の策定により、一体的に推進していくことを明示します。

本書の10ページでは、そのような計画の見直しの背景を文章で示しております。

続きまして、第1章 計画の目的と位置付けについてです。

本書の12ページをご覧ください。

本計画の目的としては、次世代に引き継ぐ長期的な札幌都心の目指す姿の明確化と関係者との共有、札幌都心の可能性と魅力を国内外に発信するツールとしての活用、公民連携でのまちづくりを進めるための取組の方向の体系化と推進方法の具体化としております。

なお、2点目の国内外に発信するツールとしては、この計画策定以降、わかりやすい概要版の作成など、効果的な発信方法を引き続き検討してまいりたいと考えております。

本書の13ページでは、本計画はおおむね20年を見すえた計画としつつ、具体的な施策、取組については、5年間の短期実行計画「中期アクションプログラム」として定め、適切な進捗管理を行うこともここで明記しています。

続きまして、本書の14ページ、計画対象区域についてです。

こちらは、これまでの検討会でも度々ご意見を頂戴したところでありますが、上位計画に示されるほぼひし形の区域を都心としつつも、取組の進捗や効果をモニタリングしていくため、境界を明確にした進捗管理区域を併せて設定します。この区域設定が、後述する本計画の目玉になるデータに基づいた進捗管理の基盤となります。

次に、第2章 現状と課題です。

この章は、前回お示しした骨子から大きく肉づけをした部分となります。

最初に、都心の現状として、気候風土・歴史、まちの資源などといった情報を整理しています。

ポイントとなりますのは、説明資料の6ページ又は本書の19ページや23ページのあたりになりますが、土地利用やエネルギー利用の状況などを街区ごとに細かく見ていき、場所ごとの違いがみられそうな九つに区分し、特性として整理を図っております。

また、本書の26ページからは、これまでの都心まちづくりの振り返りをまとめております。特に、27ページの下半分でお示ししているのは、軸や拠点といった骨格構造がこれまでまちづくりで果たしてきた成果をどう評価しているのかといったご指摘を受けて整理したものです。

なお、本書にはここまでまとめた形での掲載する形が良いと考え、このように記載しておりますが、このまとめに至るまでのバックデータの整理も進めているところでございます。

参考まで、画面のみの投影とさせていただきます。

本書の31ページからは、主に現行計画策定以後に起こった社会・経済・環境の変化と札幌市のまちづくりの動向から対応すべき課題を抽出しております。

37ページでそれらをまとめ、変化する環境に柔軟かつ機動的に対応し、次代につながる都心のまちづくりを着実に進めることが必要であると結んでいます。

続きまして、第3章 理念・目標と都心の構造になります。

説明資料の8ページ又は本書の40ページをご覧ください。

一番右端に置きました都心まちづくりの理念「世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心」は、当初よりお示ししてきたとおりとなります。

この理念を実現するため、特に注力をしていく三つの目標を設定します。

この目標の設定に当たっては、先ほどの2章で整理しましたこれまでの成果や現状、課題を踏まえ、どのような効果を生み出したいかという観点で整理をし、この図はその関連性を示すものとして作成しております。

本書の43ページ以降では、それぞれの目標について目指すもの、それに紐づく成果指標の考え方についてもこの3章にて記載をしております。

なお、目標2の成果指標については、先日の第一部会で再度議論が行われ、原案のとおり進めることになりました。

続きまして、本書の49ページの説明をさせていただきます。

ここでは、取組を進めていくに当たっての場所の考え方として、都心の構造を整理しております。下の図中段の緑の層の「骨格構造」と「エネルギー施策のエリア区分」が取組の力点として共有すべき、今後の都心まちづくりを進める上で最も重要な基本要素に位置付けます。

その下にある「まちづくりゾーン」は、都心全体を隙間なく、地域資源や土地利用の現況を踏まえた特性ごとに整理したものととなります。現況を把握するためのデータの収集に当たっては、2章のとおり進捗管理区域を基に区切って行いますが、具体的なまちづくりの検討を進める際は、本計画で示す情報を土台としながらも、地域の関係者が主体となり、将来像やまちづくりルールなどを共有しながら面的な広がりでもまちづくりを進めていくことを推奨するため、その境界はにじみ出しがあるものとしています。

また、上の層にある「先導・主要エリア」は、この後の第4章にて提示する、目標ごとに戦略的に取組を展開すべき場所の考え方となります。

都心まちづくりを進める際は、このような多層的なアプローチを踏まえ、まず、その場所の特性を把握し、基本要素の中でどのような役割を担うのかを考慮し、都心全体の整合性を保ちながら、その場所ならではの魅力を引き出すことが重要であるということを伝えたいと思っております。

説明資料の9ページ又は本書50ページ、51ページには、改めて骨格構造について本計画での位置付けと目指す姿について記載しております。

続きまして、第4章「取組の方向」について説明させていただきます。

第4章は大きく、4.1にて目標ごとの取組の方向を示し、4.2では取組の力点となる骨格構造における各軸や拠点ごとの取組の方向を示しています。

ここからは、本書に沿って一緒に中身をなぞっていただければと思います。

本書の56ページをご覧ください。

目標1「多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心」について、実現するための三つの基本方針を掲げ、その方針に基づく取組の方向を示していきます。

基本方針1-1「高次都市機能の集積」に基づき、57ページではビジネス環境の形成、次のページでは観光機能の集積、その次のページでは、商業機能や文化芸術・スポーツなどの集客交流施設、またハードだけでなくソフトを含めた多様な体験価値を創出する都心について言及しています。

60ページでは、それらの都市機能をどこに、どう集積を図っていくのかを示します。特に赤色の中央部は、目標1の「先導・主要エリア」となる都心機能強化先導エリアとし、国際競争力を牽引するため高次の都市機能の誘導を集中的に展開する場所と位置付けます。

61ページからは、基本方針1-2として、都市ブランド力の強化を掲げ、エリアマネジメントや、誰もが快適に過ごせる環境の整備、緑化と木材利用、魅力的な景観形成の重要性について記載しています。

65ページでは、基本方針1-3として、それら都心の魅力を発信するシティプロモーションの強化に言及しています。

同様に、66ページからは、目標2「冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心」と続きます。このパートは、第一部会で提示しているものとなります。

68ページより、基本方針2-1、札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」、74ページより、基本方針2-2、都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」、80ページより、基本方針2-3、多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」となっています。

第一部会では、参考事例の写真の下に解説があったほうが良いといったご意見を頂戴しており、鋭意対応中です。

また、85ページからは、空間形成指針ということで、回遊・滞在機能や交通機能の視点で

の空間形成の考え方を示します。こちらの名称についてもご指摘がありましたが、継続検討とし、一旦部会で提示したままとさせていただきます。

87ページでは、面的な回遊を強化する「主要回遊エリア」と、回遊・滞在機能の強化に向けて検討を進める「主要検討路線」を定めます。これが目標2の「先導・主要エリア」となります。

88ページ以降は、主要検討路線等における今後の検討の進め方について示しております。

91ページからは、目標3「気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靱化が進む都心」の基本方針と取組の方向に入っていきます。

こちらは、第二部会での議論により内容を深めてきたものとなっております。

93ページ下の凡例にあるとおり、こちらでは取組の方向ごとに、取組を進めるべき対象としてエリア区分と、新築建物、既存建物、エネルギーネットワークという対象を併せて提示しています。

基本方針3-1は、最適な手法の組合せによる脱炭素化の推進ということで、省エネ、面エネ、再エネの考え方を整理し、102ページではエリア区分ごとに整理した一覧もつけています。

103ページからは、基本方針3-2、雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築、108ページからは、基本方針3-3、先進的な取組の誘導と適切な進捗管理について示しております。

ここまでが目標の実現に向けた取組の方向となります。

続きまして、111ページからは、骨格構造における取組の方向になります。

それぞれの骨格軸、展開軸、交流拠点、展開拠点の目指す姿と取組の方向を記載しています。各ページの左上の図には、その軸や拠点に関連するまちづくりゾーンも示しています。これは、軸が特性の異なるまたをつないだり、沿道のみならず周辺の街区へ面的に波及したり、地区間の連続性を高めるような役割を持つことを強調したいという意図で作成しております。

続きまして、第5章「重点的に進める取組」について説明いたします。

説明資料では11ページ、本書では122ページをご覧ください。

この章の初めに、場所によらず、基礎となる取組としまして、冒頭より強調してまいりましたまちづくりとエネルギーを一体的に展開していくための具体策として、これまでエネルギー施策として進めてまいりました「札幌都心E！まち開発推進制度」を発展させ、建物の脱炭素化とエリア価値向上の双方につながる、良好な開発の誘導を図る方向に強化していくことを記載しております。

また、もう一点、札幌らしさの表出も大事な考え方となることをあわせて提示し、「ひと」「ゆき」「みどり」という配慮すべきポイントをまとめております。

続きまして、場所別の取組です。

本書の125ページにある通り、第4章で目標ごとに示した、目標達成のための「先導・主要エリア」や、骨格構造といった力点を重ね合わせながら、特に先導的に進めることが周辺への波及、連鎖の効果も高いと見込まれる取組を重点として位置付けました。

その中でも特に、重点1として打ち出しました「大通・創世交流拠点とはぐくみの軸周辺」は、集積する市有地の利活用を図りながら、官民の連鎖的な開発と相互連携によって計画期間である次の20年で特に着実にまちづくりの進展を図っていくべきと考え、第2次の計画と比べてこのエリアに対する記載は力を込めて提示しております。

重点2は、都心まちづくりを先導する二つの交流拠点と連携軸、重点3として、二つの展開拠点と展開軸を位置付けております。

最後に、第6章「取組の進め方」です。

説明資料では12ページ、本書では131ページをご覧ください。

この章では、「中期アクションプログラムの設定」「目標および取組に応じた指標の設定」「都心まちづくり推進委員会の設置」という仕組みと体制の構築を通じて、特にデータに基づく進捗管理を行い、多様な関係者と共有し、分析しながら計画を推進していくことを明示しています。

特にこれまでの検討会でも非常に多くのご意見をいただいた指標に関しては、中期アクションプログラムにて様々なモニタリング指標を位置付けることで、いただいた意見を生かしていきたいと考えております。

また、都心を区分けした図のとおり、都心一円だけではないきめ細かいデータも収集しなが

ら、まちづくりとエネルギー施策に関するデータを横断的に分析・評価を行い、新たなニーズの把握や関係者間での理解促進につなげ、まちづくりとエネルギー施策の相乗効果を見出していきたいと考えています。

最後に、本書の135ページには、まだ作成中ではございますが、三つの目標を実現するとどんな都心になっているのかというものを表すような図を描きたいと考えているところでございます。

以上、大変駆け足になってしまいましたが、計画書案のポイントをご説明させていただきました。

なお、説明資料の13ページ、14ページには、これまでいただいた意見に対してどのように対応したかを記載しております。

最後に、説明資料の15ページをご覧ください。

本日は、今ご説明しました本書案全体を通してお気づきの点についてご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

3. 意見交換

○村木座長

今、モニターに本日ご意見いただきたいことが示されていますが、意見交換に移りたいと思います。計画案全体を通してお気づきの点やご意見をいただければと思います。資料が結構多岐にわたっておりますけれども、どこからでも結構です。いかがでしょうか。

○高野委員

少し細かい点ですが、本書の21ページに交通モードという現状で、後のほうには出てくるのですが、自転車のシェアリングですね。ポロクルやL U U Pが参入していて、利用率も右肩上がりです。それぞれ伸びているので、やはり都心の交通モードとしては自転車等のシェアリングを少し記載したほうがいいのではないかとというのが1点です。

2点目は、本書の43ページですが、目標1の成果指標として純付加価値額というものを挙げています。これは、都心における純付加価値額なので、一体どういうふうに求めるのか、これは一体どういうものかという説明がないような気がします。こういうことの専門家であれば純付加価値額と言われてピンときますが、一般の方は、これが一体どういうことを意味するのか、どのようにして都心の純付加価値を求めるのかということは、もう少し分かりやすい説明をしたほうがいいのかなということです。

3点目は、85ページで、我々の第一部会でも議論している空間形成指針ですが、ここに空間形成があって、点、線、面とあって、次の86ページにも点、線、面とありまして、主要回遊エリアや主要検討路線が図4.1にありまして、それぞれ参考事例があるというつもりですが、空間形成指針という、それだけを取り出すと重要な指針というふうに思うのに対して、ここに位置付けることにどういう意味があるのかと感じました。

第5章のほうでは重点的なということで出ているのですが、点、線、面という理念的な指針になっているので、ここに入ってくると、ほかと比べて少し違和感があるのです。空間形成指針について部会で色々議論はしたのですが、どういうふうに位置付けていくかということはちょっと検討していただいたほうがいいと思います。

○村木座長

事務局からご回答をお願いします。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

高野委員、ご指摘をありがとうございました。

1点目と2点目のご指摘は承りました。シェアリングもおっしゃるとおりですし、純付加価値額につきましても、これまでの検討会の中ではご説明をさせていただきましたが、その内容等を本書にも、コラムという形がいいのか、一般の皆様にも分かりやすくお伝えできる形で表記することを検討してまいりたいと思います。

3点目につきましても、先日、第一部会で小篠委員からご指摘をいただきました件で、庁内でも検討している最中ですが、そこを反映し切れていなかったことは大変申し訳ないと思っております。

ご指摘は事務局でも課題として認識しておりますので、これから修正してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

○村木座長

空間形成指針について、ほかにご意見ある方はいらっしゃいますか。

○東委員

空間形成指針について、これは意見よりは所感めいた感じになりますが、エリア、ゾーン、ストリートということでまちがこうあったほうが良いというご提案が書かれていて、空間についての言及が少ないと思ったので、言及されて良かったなと思っていました。

本書全体を通して、まちの機能性や利便性についてはすごく配慮されていると感じるのですが、これは言葉として適切かどうか分かりませんが、美観とか、よりきれいに見せるとか、デザイン性とか、アートと言うと違うほうに話が行ってしまうのですが、札幌のセンスのよさを市民や観光客に感じていただくためにはどうしたらいいかという視点はあったほうが良いと思いました。本書がどちらかというと機能寄り、利便性寄りに感じたので、そういうところがあったほうが良いと感じました。

また、最近ではネットやSNSの発達によって、旅行をしなくても旅行をした気分になってしまう傾向もありますので、リアル空間、その場でなければ体験、体感できないような札幌らしさがまち並みやまちづくりにどう表現できているかという点は、機能性や利便性だけではなく、デザイン性に表れるのではないかと思います。あるいは、ファシリティアートですね。ですから、空間形成についても、義務ということではなくて、札幌の美観とかよさみたいなものがうまく表現できているといいのではないかと感じていました。

○村木座長

関連して、ここのところでほかにご意見のある方はお願いします。

○小篠委員

お2人の委員の意見も踏まえた上で、全体を通して聞くと、少し理念的なところが多くなっています。特に、空間の話をしているときに理念の話がすごく膨らんでしまっている一方で、エネルギーのほうは目標値がはっきりしているので、それに向けてどうやって達成するのかという話がかかれていますが、ここのバランスがあまり良くないと思っています。

前の部会でも申し上げたのですが、空間のほうも誘導の施策というか、方針をもっと明確に、できれば制度として持ち込むというところまで持っていけないと、バランスが取りづらいのではないかと感じています。札幌市のこれから20年後までを対象としたまちづくりの方針は第2次でもう示されていると言っても過言ではないので、それを焼き直しているような感じに見えてしまうから、第3次はそれをどう具体化するのかというところに話をシフトしているというところがもう少し明確に見えたほうが良いのではないかと話をしたのです。そこは議論の幅がまだ足りないので、まとめられていない感じがすごくしますが、今日、全体見させていただいて、やっぱり必要なのではないかとすごく感じました。

戦略として、インフラのことに言及してはいますけれども、エネルギーの話になってくると、一つの建物単体でどれくらいの省エネをするかということが一つの指標になっているということはあると思います。一方で、空間の話をしようとする、建物もそうですけれども、建物の外側のパブリックスペースをどう考えるのかという話が盛んにパースで描かれているのですが、このパースを達成するために何をしたらいいのかということが指標として書かれていないので、そこを書いていただいて、122ページに書いてある取組で、エネルギーのほうは札幌都心E！まち開発推進制度をずっとやっているということがありますが、パブリックスペースをつくるためにも、そこはどういうふうに官民で協働するかという話も整理しなければいけません。そういうことも含めて制度化するというか、具体的に実現するときにどうやっていくのかということ協議する場をつくるとか、方針を決めるとか、誘導するエリアを決めるとか、それぐらいのところまではちゃんと書いていったほうが良いのではないかと強く感じましたところ。

2人の委員の意見も引き継いで発言させていただきました。

○村木座長

エネルギーマスタープランも、最初の頃は札幌都心E！まち開発推進制度はなく、アクションプランの中で出てきて、それがこっちに新しく入ってきたということなので、道筋をつくる観点から、次のまちづくりの誘導方策をつくる上での礎になるものがもう少し明確になるというご意見ですね。

事務局は、今の小篠委員のご意見を伺って、いかがでしょうか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

ご指摘をありがとうございます。

まさにおっしゃるとおりだと思っております、先ほどもご指摘いただきました122ページに、札幌都心E！まち開発推進制度の発展、強化ということで、エネルギーの話だけではなくて、建物の更新に関しての空間のつくり方やパブリックスペースに関してもこの中に組み込んでいけないかという検討を、次年度以降、まさにこの計画をきっかけとして具体策につなげていきたいという思いで書かせていただいております。

確かに記載の強弱はありまして、どこまで書けるのかというところはございますけれども、そこは庁内的にもチャレンジさせていただきたいと思っています。ただ、思いとしては、そういうことをしっかりと捉えて、いいまちになるような形で誘導や協議をしていきたいと考えているところです。

○村木座長

122ページの書き方が少し肝になると、先ほどからご指摘されていた空間形成指針の位置付けや記載がこれでいいのかということですね。ただ、ここのボリュームを大きくしていくと、何となく据わりが悪くなるのかもしれない。このあたりはどうしたらいいのか、何かご意見あったらお願いしたいです。

○小篠委員

難しいところですが、空間形成指針が宙に浮いている感じなのです。ですから、空間形成指針をこう考えるというところの誘導策が122ページですという書き方になっていけば、これを実現するための方策がはっきり分かるようになると思います。

○村木座長

そうすると、85ページが122ページの後ろにあるということもあり得ますね。

○小篠委員

その後ろか前にですね。

○村木座長

そのあたりももう少し検討されるといいと思いました。

ほかにいかがでしょうか。

○東委員

全体を通して感じたのは、エネルギーの中にまちの強靱化が含まれていますが、まちの防災、安心・安全、強靱化がもう少し前面に出ていてもいいのではないかと思います。

例えば、前回の会合で下水配管の話が少し話題になりましたが、まちのインフラだったり、災害に対する安心・安全だったり、少し話が飛躍しますけれども、サイバー攻撃、あるいは、災害の後で言えば、被災後のエネルギーについては言及されているのですが、交通や通信についてどういう備えが求められるかということの記載があってもいいと思いました。

この本書自体は全体的に非常によくできていると思うのですが、まちづくりの基本は安心・安全が一丁目一番地なので、そこがエネルギーと一緒に後ろになっているのが、見え方もそうですけれども、考え方としてどうなのかと感じました。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

ご指摘をありがとうございます。

確かに、安全・安心の面は我々も重要だと認識しておりまして、目標の中にも記載をさせていただいております。

その中で、ボリュームもさることながら、順番の話を最後にいただきましたけれども、何を最初に持っていく、何を後ろに持っていくかというところは我々も非常に悩ましいと思っております。一旦の我々の考えとしましては、都心に一番強く求められる機能としては高次都市機能が第一であろうということで目標1に置かせていただいて、ベースとなる安全・安心については後段に置かせていただきました。事務局ではそのような検討の上で順番を考えさせていただきましたが、その前にご指摘のあった記載をもう少し厚くしてはというところは、関連部局も含めて検討させていただければと思います。

○村木座長

エネルギーについては、目に見えないものを理解していただくために、安全なまちという言い方をすると、一般の方も理解していただけるのですが、それを先に言ってしまうと、目に見えないものがまた見えなくなるので、難しいところかなと思って聞いていました。

ほかにいかがでしょうか。

○榎本委員

本書の19ページを拝見すると、区分ごと、地域ごと、エリアごとの主要用途の構成や土地

利用、人口分布を非常に丁寧に分析していただいているのですが、その後、空間の形成の方針や、本書の60ページ、61ページの基本方針など、せっかく具体的に分析したのに、取組のところが一般的な記載になっており、エリアの特徴を踏まえずにどこの地域でも読み解けるような書き方になっているのが少し残念に思いました。

特に、骨格構造における取組の方向などについては、ハードなまちづくりが中心となった記載内容になっているので、分析のほうで出てきた用途構成などを踏まえて、どういう用途誘導が望ましいのかということがあまり明示的には書かれていないので、そこは少し改善ができると思います。

はぐくみの軸に関しては、既に札幌市でガイドラインをつくられていて、もう少し細かなことが書かれているはずですし、61ページにあるような、地域が主体となってもまちづくりを進めているようなところは、多分、エリアの方針というのは地域の方々が既につくられているものがあると思うので、その接続をきちんと書けば、具体的なエリアの特徴が少し見えてこないかなと思っていました。ハード偏重になっているところが少し気になります。

○村木座長

せっかくデータを持っているのだから、その後ろとの関係性をもう少し明確にということはおっしゃるとおりだと思いますので、そのあたりをご検討いただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○島口委員

観光という言葉が大分増えてきましたので、大変うれしいのですが、全般的に見たときに、誰に向かっているのか、この中心エリアには住民がいないわけで、どこから来街するわけですから、そのときに、市民なのか、それとも道外のお客様なのか、海外のお客様なのかという中で、全部が項目の中に埋め込まれてしまっているのです。

実際にこの都市でこれから20年後を考えたときに、何で食べていくのかを考えたら、観光というものをきちんと独立させて、観光戦略という中できちんとやっていくべきというのが本来の形かと思います。そういう意味では、誰に向かってこの指針をつくっていくのかということところが逆に埋もれてしまっている感じがします。

それから、この都市が稼ぐ構造体をもう少しはっきり打ち出すということも必要かと思います。

例えば、観光バスですね。他都市からここに入ってくるわけですが、どういうルートで入ってきて、まち中でどのように安全に降ろすのかという想定が全くされていません。バスの乗降場を設置と言いますが、このまちには公的なバスの設置はないですね。乗降できる場所は見つかりましたが、公的に用意しているものがないです。駐車場は少し離れたところにおつくりになりましたけれども、今後、市役所の建替えをするときに、観光バスの駐車場と乗降場を一体にしたものをつくっていかうとか、そういう意味での観光の動線というか、最後に新千歳空港まで行くラインを含めて、新幹線も含めてですが、そういうものが想定されていないので、この都市が実際にどう活用されていくのかということを考えています。

もう一つは、今、中島公園に、すごいお金をかけてMICEをつくらうとしています。この中ではMICEにも使えるという雰囲気になっているのですが、20年後を考えるのなら、本来はMICEをもう少しきちんと表現すべきだと思います。まちの未来を担う重要な観光のMICE施設があるならば、そこをもう少し大きく表現して、逆に我々が後押しをするぐらいの気持ちがあってもいいと思いました。

最後に、リノベーションを含めて新しい建物が増えて、公開空地がまち中にいっぱい生まれてきております。先ほど小篠委員もおっしゃっていましたが、公開空地、パブリックスペースの活用が全くないのです。札幌市の要件の中で公開空地が生まれるのですが、それをどう有効に活用しようかというプランニングが全く表現されておりませんので、そういうものの活用案をどうしていくのかということも含めてお考えいただけたらありがたいと思います。

○村木座長

観光とMICEと公開空地についてのご意見でしたけれども、事務局、いかがでしょうか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

ご指摘をありがとうございます。

観光面につきましては、かねてよりご指摘をいただきまして、我々でも庁内的に検討させていただいて、記載は徐々に厚くなっているとおっしゃっていただきましたけれども、なかなか具体のところまで踏み込めていないので、引き続き、この計画や、今後策定していくアクション

ンプログラムで具体的話を深めていければと考えております。

また、公開空地の活用についてのご指摘もありがとうございます。

現在、公開空地について、より分かりやすく、より使いやすいように、ガイドライン的なものをつくれないうことを庁内でも検討しておりまして、今後、そういうことも進めていく予定ですので、またご意見等を伺いながら具体化していければと思います。よろしくお願いいたします。

○村木座長

あとは、先ほどご指摘いただいた観光は、都心の中でも場所によってすごく違いがあるということで、モニタリングされるときにデータの取り方のエリアをどうするか、131ページにモニタリング指標をアクションプログラムで位置付けますとあるので、言われていることがきちんとモニターされるようにすることも大事かもしれませんね。

関連してでも、ほかのことで結構ですが、ご意見いかがでしょうか。

○池ノ上委員

今、観光の話がありまして、私は札幌市の観光まちづくり戦略の策定に関わらせていただきましたが、そちらは、まちづくりの話なので、それ以上は書けませんという話になっていました。その一方で、まちづくりの戦略で観光をしっかり位置付けることには私も賛成します。

つまり、今おっしゃられたように、人が外から都心に入ってきてどう行動するのか、それが経済波及効果や交流の効果としてどんな利益をもたらすのか、一方で、オーバーツーリズムという話もあるので、キャパシティーはどうなのかという話を明らかにしていくことが大切かと思っていますし、それが先ほどの指標づくりに生かされるといいと思います。

もう一つは、本書の39ページに理念と目標が書かれています。これも当初から申し上げてきましたが、ここに書かれているのはまさに理念で、「世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心」とあるけれども、つまり、それは何なのかということが相変わらず分からないです。

例えば、ヤン・ゲールは、パブリックライフが大切だ、公共的な生活、あるいはそこでの過ごし方が都市の魅力をつくり出していくのだということを言っていますが、札幌らしいパブリックライフが何かというところが見えてきた中で、空間というものがつくり出せると思うのです。

ですから、このページの後にパブリックスペースの話が色々出てくるけれども、その根拠になる札幌らしいパブリックライフとは何かというところが明確に書かれていないので、そこが弱いと思っています。

もし書けるのであれば、札幌らしいパブリックライフとは何かということを書いてほしいと思いますし、書けないのであれば、今後それを明らかにしていくということをどこかに書いてほしいと思っています。

つい先日、コペンハーゲンに行ってきたのですが、あそこのパブリックライフで面白いと思ったのは、水際に飛び込み台みたいなものがたくさんつくられているんですね。あそこは都心なので、札幌市が目指しているような高次の都市機能を集積するエリアとしてしっかりとつくり込んでいっているのですが、お昼休みの後ぐらいにドボンをするんですね。つまり、ご飯を食べた後に眠たくなるとか、お昼過ぎに少し疲れた体を癒やすために、水に一回飛び込むんですね。もちろん、北海道と同じような気候なので、めちゃくちゃ冷たいのですけれども、そこですっきりして上がってくるのです。ですから、リゾートではなくて、しっかりと仕事をするまちとして水面の使い方をしっかり位置付けているのが面白いと思いました。

今、札幌でドボンをする空間はないかもしれないですが、高次の都市機能を集積するエリアだからこそ、お仕事している人がどんな過ごし方をしているのかというところが見えてくると、今後の方向性も分かりやすく描けるのではないかと思います。

○村木座長

札幌らしさとは一体何かということですね。北欧に行くと、おっしゃるとおり、サウナに入って海に飛び込むということをししますね。それが彼らのスタイルであり、まちのつくり方だとすると、ほかのまちにない札幌ならではのものがパブリックライフになるのだと思うのですけれども、そこが明確になっていないと、何をやるのかが分からないということですね。

○小篠委員

今の話にも関連するのですが、私がずっと思っているのは、先ほど少し言及しましたが、第2次と第3次ではどこが違うということを明確にしなければいけないということが一つあると

思います。

その中の一つが本編の14ページで、進捗管理区域という形にしていますが、都心のエリアを広げていくと言うと語弊があるかもしれませんが、このエリアまでを都心だと考える必要があるのではないかとこのところが、おぼろげながらの菱形であったときとちょっと違ってきているということですね。

20年後を考えると、札幌市も人口の減少局面に入ってきますが、20年前と今を比べて随分変化してきているのは創成イーストですし、あと10年ぐらいたてば新幹線の駅もできるでしょうから、既にそれを見越した形で北7条周辺は集積や再開発が始まって、病院やオフィスビルができていますし、さらに動きが出てくるだろうし、住宅もそちら側にもっと生まれてくると思います。

ですから、「皮とあんこ」ではないけれども、「あんこ」は観光とか都市機能という意味で議論されているし、皆さんの注目も集まっていますが、「皮」のところはどうするのか。そこも都心という位置付けだと理解するかどうかは色々議論があるかもしれませんが、境界線上のところの既成市街地と都心がつながっているような部分をどのように見ていくのかという議論がもう一つあっていいと思います。

創成イーストの開発のときに、札幌らしさということをしごく言っていましたね。職住近接の話でそのことを言っていたわけですが、通勤時間が10分ぐらいで都心のオフィスに行けるまちはないので、札幌通勤を喜ぶ方がいるわけです。

そういうことは、この中に住んでいるとだんだん忘れてしまうのだけれども、そのことがもっと強調されていくのが20年後ではないかと捉えると、まさに都心の中に住むということがどれだけ重視されてくるかということにつながっていくのではないかと思います。それは、大都市圏とは全然違う動きになってきます。

そういう意味で、札幌の都心は非常にコンビニエントであり、都心に暮らせるまちだということが札幌らしさにもつながってくると考えています。

ただ、その表現がちょっと足りないと思っています。先ほどのご指摘で、居住機能や地区ごとに分析した棒グラフをつくっていただいているのですが、住宅機能が非常に多くなっているというのが創成イーストの北と南なので、それも都心だよねと言うのであれば、その誘導指針は明確にしてもいいと思っています。

また、前回の第一部会で出ていたのですが、居住機能を誘導したときの基壇部分をどうするのかという方策がないと、ただマンションが建つだけとなって、そこに住む人たちだけの利用にとどまってしまう。

一方で、オフィスビルのところは盛んにパースを描いていますけれども、そこは外に開いて、みんなが使えるパブリックスペース的な利用を街路空間からしていきましょうという話で描かれています。それはそれでいいと思うのですが、居住が集積するところはどういうふうに関係づけしていくのかという誘導方針は絶対に必要です。

また先ほどの話に戻ってしまいましたが、そういうところを加えていかないと、都心全体をどうしていくかということを書いていないので、そのゾーンのところに誘導方針みたいなものを書かなければいけないと思います。

軸も増やしていますからね。4丁目の位置付けを強化して、36号線まで軸という扱いにすると書いています。ファクトリーのところは歩道空間が広がりますけれども、そういった回遊性をどうしていくのかとか、それで都市とぶち切れるわけではないから、既成市街地をどうやってつながっていくのかとか、そういうところに交通の話も入ってくるだろうというところの議論の厚みがちょっと足りないです。

ここに書き切れないとは思いますが、そういう議論を次の展開でやっていきましょうということが書かれていることが非常に大事で、これで終わりではないよね、足りないところの計画もつくっていくのだという話で考えていくことはすごく大事だと思うので、その辺のトリガーを少し出しておくとか、そういう書きぶりになっているほうがいいと思います。

○村木座長

今いただいたお話は、方策として明確に書けなくても、そういう方策を考えていきますと書いていくことに意義があるということですね。

すごく大事だと思ったのは創成イーストの話で、住宅が多いと。おっしゃるとおり、普通に何もしなければマンションの1階は入り口だけになってしまうけれども、都心ならではの価値のある住宅地とは何かと考えると、1階部分が別の用途であるということで、ポートランドで

すと7対3で他用途が入ります。それが都心だということからすると、札幌の都市の住宅地はどうなのかということがもう少しあっていいということですね。それをすぐに記載できなくても、そういうことを考えていくというのが今までの第2次とこれからの第3次の違いということですね。

事務局、分かっていたかもしれません。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

先に小篠委員のご意見についてお話をさせていただいて、その後、池ノ之上委員のご指摘についてお話をさせていただきます。

居住に関しては、我々も今回の計画の中で方向性は打ち出さなければいけないというミッションを掲げて取り組んできたつもりです。先ほどトリガーというお話がございましたけれども、それをどこに表現しているのかといいますと、本書の60ページの中に居住に関する方向性を示しているつもりです。

札幌市には土地利用に関係する様々な制度等がありますので、そういうところにつなげていきたいと考えております。ここでは細かいゾーン分けまではしておりませんが、都心機能強化先導エリアという高次機能を優先するエリアと、その周辺にあるエリアと、さらに、先ほどお話にありました「皮とあんこ」の「皮」の部分につきまして、居住の誘導の仕方は方向性が全く違うと思いますので、そのあたりは今後具体的に示していければと考えております。

また、1階部分や低層部に関しましては、先日、第一部会で遠藤委員からご指摘がありましたとおり、そのあたりの機能誘導は、我々としても事業者の皆様にご相談をさせていただいていますが、強制力という点では薄いところもありますので、今後、どういうことを手当てしていけるのかということも併せて考えていかなければいけないと思っております。小篠委員のご指摘を踏まえて、さらに検討を深めていければと考えているところです。

続きまして、池ノ上委員からのご指摘ですが、札幌のパブリックライフの形が見えないということで、札幌らしさについては、まちづくり戦略ビジョンでもそうですし、観光のまちづくりプランの中にもそういった話題が出てきたのではないかと思います。

札幌らしさをそれぞれの計画の中でどのように表現するのかというところは我々も悩んでおりますが、パブリックライフをパースで表現したいと思って記載をさせていただいているところが45ページから47ページのあたりです。

46ページを開いていただけますでしょうか。

これは冬のイメージですが、札幌地下歩行空間も非常に重要な要素だと思っておりますので、こういった空間の使われ方、こういった過ごし方が見えるような形で表現できないかと思っておりますけれども、まだまだ足りないというご指摘だと思いますので、このあたりも検討したいと思っております。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○池田委員

一つは61ページです。

「まちへの愛着の醸成」とありますけれども、ここを担うエリアマネジメントの団体やグループ、島口委員はやっていらっしゃると思いますが、そのあたりの内容をもう少し明確に記録しておくことで、実際の現場からまちの魅力の分析などもできるのではないかと考えています。

例えば、小学生もまち歩きをする場面がありますが、大人とか学生たちだけではなくて、子どもたちも参加できるような仕組みをつくるエリアマネジメントの団体がこのまちづくりに大きな力を発揮してくるのではないかと思います。

ですから、その辺の方針ですね。大前提は書いていますけれども、現実化できるような項目を加筆していただければありがたいということが一つです。

もう一つは、違った視点ですが、観光客の方たちも、おいしい食事を求めたり、ガストロノミー的な考え方が非常に強い方も最近増えてきておりますが、それを担保するには、札幌だけではなくて、札幌近郊の農家の協力をいただいて、また、郊外に行く体験ツアーが最近は多いですね。

そういう意味では、よく言われるグレーター札幌的な発想をまちづくり計画の中に要素として加えていただければ、今後、札幌の強さとかよさをもっともっと発揮できるのではないかと思います。「皮」にしても、薄皮のようなもので、ちょっとはみ出ていってもいいような、グ

レーター札幌的な発想をもうちょっと取り入れていただくと、色々な側面に生かされていくのではないかと考えております。

○村木座長

ほかにご意見のある方はいらっしゃいますか。

○片山委員

私は、部会には参加せず、検討会だけに参加させていただいてまして、この場で新しい情報を学ばせていただいて、今こういう提案になっているのかと理解している最中です。

雑駁な感想としては、皆様にご議論されているように、札幌らしさとか、まちづくりとエネルギーが合致して北国らしさといった、札幌の新しい都心まちづくりを打ち出そうとしています。北国のほかのまちから手本にされるような計画になっていくと思うのですが、何か一つ、札幌市らしいパブリックライフの象徴空間ができるといいのではないかと感じました。

具体的にどういうものかという、木製サッシのあるメーカーと話をしたときに、古民家を改修してカフェをつくって、その木製サッシを入れたらしいのですけれども、複層ガラスの間が真空になっていて、すごく薄いにもかかわらず強度があって、古民家で隙間風も結構あるのだけれども、窓のそばに寄っても全然寒くないのです。そこで、ゆったりと雪景色を見ながら、まちを見ながらおいしいコーヒーを飲む人々の姿というのは、札幌らしい、雪国らしいパブリックライフの象徴空間の一例だと思うのです。

北海道の技術、ディテールでちゃんと語れるようなミクロ空間があって、そこに人々のにぎわいというか、新しいライフスタイルの景色がきちんと具現化されていて、それがマクロな新しいまちづくりとエネルギーというマクロ空間とリンクしているといった象徴空間ができる、とてもいいなと思いました。

この計画の段階でそれが何かということ決める必要はないと思うのですけれども、新しい空間の在り方も探していくというような一言があると、新しい札幌のエネルギーとまちづくりというものが見えてくると感じました。

○村木座長

パブリックライフのところからつながって、それをどうやってつくるのかというのは、エリア別に違うと思いますし、それをつくっていくのは、空間的なものもそうですし、池田委員がおっしゃっていたエリアマネジメントや、それに参画する人も含めて、プログラムをどうやってつくっていくのかということとも関連すると思って伺っていました。

ほかにご意見はいかがでしょうか。

○東委員

札幌のパブリックライフということ言うと、「ひと」「ゆき」「みどり」の3要素に集約されていると思っていたのですけれども、長く住んでいる方だと、それでは少し物足りないのかなという印象を持ちました。

新しい象徴的な空間をつくるというのは一番分かりやすいですけれども、私にとっては、大通公園もそうですし、また、私は時計台の前を歩いて「時計台はどこですか」と聞かれたことが2回くらいあるのですが、一応は札幌の大事なアイコンでしょうし、それを再生するというと大げさな言い方ですけれども、それを大事にしているということが、札幌の都市のブランド力や、シティプロモーションをどのようにやっていくか、誰に対して何をどの媒体で訴求していくかということにつながるとと思いますし、それは資料の中にも言及されています。

私は道民ですと言っても、しょせんは住み始めて4年目ですが、札幌市民や札幌に愛着を持っていらっしゃる方にとって何か足りないということであれば、それを皆さんに分かりやすく共有していただく素材が必要なのかなと感じましたし、皆さんの感じ方はこんなに違うのかということ学びました。

シティプロモーションと都市のブランド力について言いますと、観光客や市民というのは、SNSとかネットで市民の皆さんの関心事、フォロワーの関心事がどう移っているか、都心のまちづくりは、どこが成功していて、どこが受けていないかが分かっている時代がもう来ていると思うので、それで足りない点を補ったり、長所を伸ばしていけるのではないかと思います。

一方、企業の最大の優先課題は生産性の向上と人材の確保・獲得ですけれども、ここに書かれているGX金融・資産運用特区や災害への対応ですね。BCPというのは企業活動の最重要課題の延長線上にあるものなので、様子見モードになりがちで、アクション起こしづらいとい

う観点もありますので、企業向けには、成果の規模としては小さいかもしれませんが、スタートアップの方に、企業活動も含めた生活のしやすさとか、コストはかかりますが、東京からの距離の近さとか、そういうことを理解していただいて、スタートアップの件数や実績を上げていくということが、札幌にとってよりアピールしやすい点になると理解しています。

そういう意味では、前回も申しましたが、学校がまちの近くにあって、若い人が入ってくる環境にある札幌市というのは、道外からも人が来ますので、道内に限らず、国内でも優位性があるというところをうまく使って、ブランド力とかシティプロモーションも含めて伸ばしていけるのではないかと感じております。

○村木座長

ほかにご意見はいかがでしょうか。

○井上委員

ちょっと概念的かもしれませんが、都心の方向性というのは、ひし形の本当の真ん中のところは、インバウンドを含む観光客や、ビジネスとして札幌を訪れる方がいかに交流できるか、楽しめるかというところを的に置いていると思います。

一方で、札幌市民の人たちがそこをどういうふうに楽しく使えるかということも忘れてはいけなくて、外から来た人たちが楽しめればいいというものではないですし、そういう使い方もあまり良くないのだろうと思うのです。

そのときにどう考えるかということで、都心まちづくりの中で札幌市民にとっては、この都心でどういう魅力が出ていますかということを考えることも必要なのだろうと思います。もちろん、札幌としてのポテンシャルを拡大させることも必要だと思うのです。

そういう意味では、同じ特徴的な場所を使い分けるような工夫というものも一つあると思うのです。ここはこういうイメージですというふうの特徴を出すのはいいですが、その人たちがメインとして使っていないときにはこんな使い方もできますよと示してあげて、ふだん使わない人がそこを使ったときに、こんなところもあるのだね、こういう使い方もあるのだねと思ってもらう。

丸の内では、日常と非日常という考え方でまちづくりがされています。日常というと、丸の内は働くことがメインなので、働いているときの使い方です。一方、非日常というのは、夜であったり、土曜・日曜であったり、そこで丸の内の空間をどういうふうに使ってもらえると、ふだんいない人たちもこんなふうに使えますよという考え方です。

これとは別の軸で、今お話ししたような札幌の特徴をどれだけ特徴づけるか、ポテンシャルをどう拡大させるか、その対局は、もし何かあったときで、例えば災害があったときにもこういうふうに対応できますといういわゆるレジリエンスみたいな考え方ですね。ですから、これを別々の軸で考えることが必要だと思っています。

都心まちづくりの特徴の中で、市民にもこういう使い方ができるのだよという市民にとっての魅力をどう盛り込めるのかというのは一つの観点かと思っています。

魅力と言っても、何を魅力に感じるかは人によってかなり違うと思います。外国から来るインバウンド、特に富裕層であれば、幾らお金を出してもいいから北海道の魅力を体験したいという方もいらっしゃるし、国内の観光客であれば、そこまでの出費はしたくないけれども、北海道に来たのだから北海道を楽しみたいよねという方もいます。

でも、忘れてはいけないのは、地元の人たちが住んで良かったと思えるということなので、ふだんは郊外でゆったりと住んでいるのかもしれないけれども、こういう都心でどう過ごせるかということも大事な話だと思います。

それから、前半に都心の話を書いてあって、後半にエネルギーの話が書いてありますが、私は最近、脱炭素というのは建物の話だけではないだろうと思っていて、例えば、インフラの考え方とか、公共空間、屋外空間ですね。建物のすぐ周りがある空間も含めてどういうふうに考えるかということだと思っています。

ですから、前半に書いてある札幌都心の特徴を、エネルギーの問題も含めてどういうふうに実現していくかというのは非常に大事な問題だと思っていますので、前半と後半を分けて考えるのではなく、前半の都心をエネルギーという観点から考えるとどういう施策やインセンティブが必要なのかということもあると思います。

例えば、木をたくさん使いましょうという話もあると思います。これは札幌だけで解決できるかどうかは別として、せっかく木を使っても、やはり火事が起きたら大変だから、上に何か石膏ボードをもう1枚張りましょとなると、エンボディドカーボンには貢献するかもしれな

いけれども、そこを使う人たちにはその木は見えないという矛盾のようなことを都市のまちづくりの中で考えていくという側面も必要かと思います。

○村木座長

前半と後半のつながりをどうするか、それから、ワーカーの人たちがそのまま都心で過ごすということもあるし、郊外の人たちが都心にということもあるので、市民にとっての都心の在り方をどう書き込んでいくかということかと思いました。

○高野委員

二昔ぐらい前の札幌のパブリックライフの一つは、平日、仕事が終わった後にスキーに行って、バスで行ってバスで帰ってくるということだったのですが、流行り、廃りがありますから、今はそういうことはほとんどなくなってしまいました。

それとは別の話ですが、14ページの計画対象区域についてです。

北大と中島公園と東の苗穂は、進捗管理区域とくっついてはいるのだけれども、微妙に外れているのです。これは、意思決定主体が異なるということだと思いますが、例えば、北大では総長選挙戦が始まりつつあるのですけれども、争点は財政問題、赤字問題になっています。要は、民間主導の開発を大学で受け入れるということもしていかないと財政問題が解決しないという話も出てきています。

そういう意味で、MICEということで言うと、北大は9月に毎週学会があって数千人の人が訪れています。そういう学会機能があって、宿泊機能はこの周辺にあまりないですけれども、リニューアルも含めてそこもやっていくとすると、一体的な開発ということは今以上に進めなくてはいけないと思っています。

中島公園についても、はみ出ていますけれども、公園の中にMICEもありますし、機能としては一体になります。

そして、53ページにまちづくりゾーンとあります。54ページの①札幌北のところに北大との近接性を生かしというコメントがありますし、⑤の中島公園駅周辺には交流する魅力的なゾーンとありますが、まさに公園も取り込んだゾーン仕分けになっています。

ですから、14ページで、進捗管理区域を示さなくてはいけないかもしれないけれども、文章では一体となっていて書いていますから、矢印でつなげるなどをして、北大、中島公園、また苗穂も一つの都市機能があるので、そこはつながりが相当強いという表現をされてもいいと思います。もちろん、北大植物園も公園機能として極めて重要なところがあるので、リンケージがすごく重要だということを打ち出していただきながら、次のステップで、北大との一体開発とか、植物園とか、中島公園は進んでいくと思いますが、そういう方向性を積極的に示していただきたいということです。

○村木座長

14ページは、今のご意見を受けて、矢印を入れるなどのご検討をいただければと思います。

2人のご意見に対していかがでしょうか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

ご指摘をありがとうございます。

まず、高野委員のご意見ですが、北大、中島公園、苗穂との連携というのは、我々も意識をしているがゆえのこの表現だったのですが、まだまだ弱いということでしたので、ご指摘を踏まえて図の修正等を行っていただければと思いますし、今後の進め方についても意識をしていただければと考えております。

また、井上委員からもご指摘がありましたが、市民がこの都心をどういうふうに使ってもらえるのかというところは、決して観光客や来街者だけではなく、市民の方々にどういうふうに通心に来てもらい、楽しんでもらい、豊かな時間を過ごしていただけるかというところは大事な要素だと思っています。

これは別の計画ではございますけれども、大通公園の計画等を考える上でもそういった議論があったやに聞いていますが、そういった要素をこの中にしっかりと盛り込んでいかなければいけないという認識は我々も同じですが、まだ表現が足りないという部分は工夫していきたいと考えております。

○村木座長

井上委員が最後におっしゃっていたエンボディドカーボンの石膏ボードの話は、できればエネルギーの部会での議論として考えていただければと思います。

消防法の関係があると思いますけれども、一般の方たちに対して木の意味をどうやって伝えるのかという観点では、札幌のこれからの建物をどうしていくのかということとも関係するかと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○後藤委員

URの後藤です。

今日は、都心の誘導すべき高次都市機能の中にぜひ居住機能を入れていただきたいというお話をしようと思ってここに來たのですが、先ほどから大変な話題の中心になっております。

私も見落としていたのですが、60ページで、本当の都心部の居住機能は協議、調整をしながら、いいものだけをつくるという整理がなされていたことを先ほど気がつきました。私どもURもこのエリア内に賃貸住宅があります。将来いずれはリニューアルをすることもありますので、この協議、調整の対象になるのだろうと思います。

そして、そのために何が望ましい都心居住なのかということは、今日のご意見を踏まえて書き足されるところもあるでしょうし、書き切れない分は中期アクションプログラムでフォローをされるのだろうと期待しております。私たちもできることは協力してまいりたいと思いますし、居住機能は札幌の都心のパブリックライフの重要な要素になると思っていますので、その加筆を期待したいと思います。

○村木座長

ぜひ都心にあるユニットを生かして新しいチャレンジをして、先生方がご指摘されているような機能が入った再生を、URならではのものをぜひお考えいただければと思います。また、そのあたりを書かれたらURも引き下がれなくなるかもしれませんので、少しご検討いただくといいのかもしれないと思いました。

ほかにいかがでしょうか。

○島口委員

今までのご意見を聞きますと、観光の重要性はお考えいただいているということかと思います。先ほどありましたけれども、第2次と第3次の違いは何かというときに、今はぼけてしまっているのです。そういう意味で、提案としては、今まではこの中に観光の部分が散りばめられていますが、それこそ一つの章にして、観光とまちづくりという観点で一つ枠をつくってしまって、変化を見いだすと。これから、このまちでは新幹線、MICEを含めた新しい戦略を持つわけですから、目新しさという言い方ではないですけども、そういうところで枠を大きく上に持ってくるというやり方も一つなのかなと思いました。

また、先ほどの居住な話ですが、札幌も徐々に始めているのですが、商店街とか繁華街にマンションをつくって、その1階に商業施設をつくらないということで、商業施設を壊しているところがあります。実は、札幌だけではなくて、日本全国の商店街でそのような状況なのです。

そういうときに、都市の指針として、商業ゾーンの上の空間を使うことは別に構わないのですけれども、そういうところの抑止というか、考え方の中で、この都市はどういう考えを持っているのかというところを示していくことも必要だと思いました。

○村木座長

観光の話と1階部分の用途ということで、特に都心の商業エリアですね。地区計画で考えるのか、すぐにということではなくても検討のための書き込みがされるのか、そこも含めて少し検討が必要かと思いますが、事務局はいかがでしょう。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

住居の1階部分や低層部の誘導に関しましては、何らかの検討なり手だてなりが必要ではないかという課題認識を持っております。

その一方、強制力というところまで言ってしまうかどうかは庁内でも議論をさせていただければと思いますが、住居の低層部の在り方につきましては、全体の居住誘導の話を含めて検討した上で、今後お示しできればと考えております。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○小篠委員

違う視点ですけども、今までの都心まちづくり計画になかった話で、これは意図的に外しているのだろうと思いながらも遅きに失しているので、ここで言うてどうなるものでもない

思いながら、歴史的資源をどうするのかという話ですね。

これは、ないところが多くなってしまいましたが、創成イーストの側にはまだちょっと残っているものもあります。先ほどから出ている札幌のシティライフをどう考えるかというときの都市への愛着や、先ほど民家のリノベーションの話もありましたけれども、市民だけではなくて、外から来る観光客もそういうところに立ち寄りたとか、そういうまち並みを探して歩きたいとか、そういうニーズはどこの都市でも高いのです。

札幌の場合は、時計台の話もありましたが、重要文化財的なものは少し残ってつつも、民間の暮らしがにじみ出るようなまち並みはほぼなくなってしまっているのです、そういう意味では遅きに失していて、誘導策が非常に難しいですが、考えないわけではないということです。魅力的で残せるものがあって、それをエリアマネジメントも通しながらやっていこうと思っている人たちがいるのならば、そういうところは支援していきたいというぐらゐの書き方はあっていいと思います。そうしないと、札幌のパブリックライフとは何だろうねとみんな考えてしまうくらい何もなくなって、ほかのまちと全く一緒という話になってしまうので、これから20年という中で、一つの旗は立てておいたほうがいいのではないかと思います。

局面が変わって、冬季五輪をやれば新幹線も来てどんどん開発だという話ではなくなってくるということを入れておいたほうが、知性の高さが強調される計画書になるのではないかと思います。

○村木座長

開発で全てが新しくなるのではなくて、昔からの札幌らしさが失われないようにするために、それを要素として残すためのものを考えるアクション、それにつながるものをここに記載しないとアクションプランにならないということです。すごく大事な要素です。

全部がピカピカになってしまったら、そのまちのらしさがなくなってしまうので、残っているものを大事にするということと、重要文化財にはならなくても、そこにあったルールの再発見と、なおかつ、それが開発と連動するような新しい仕組みをここで考える礎のようなものがこの中に入っていると、アクションプランをつくるときにはいいというご指摘だと思います。

ぜひお願いしたいと思いますが、事務局、いかがでしょうか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

ご意見をありがとうございます。

非常に難しい課題だということと、具体的な施策をどういうふうにつくり上げていくのかということも含めて、しっかり受け止めなければいけない課題だと思いました。

言い訳に聞こえてしまったら申し訳ないのですが、要素としては、本書の64ページに、「先進性と歴史が調和した魅力的な景観づくりを進めます」と、歴史資源のところでも一部触れさせていただいてはいるものの、先ほど冒頭に申しましたとおり、そこにどう具体的な施策を入れていくのかということが大事だと思います。

リノベーションも、建築費の高騰等も含めて、小篠委員から局面が変わったというお話がありましたけれども、時代の流れ、動きも捉えまして、何らかの手を入れていくことを今後考えていきたいと思っています。引き続き、アクションプランプログラム等の中で検討を進めていければと思いますが、そのフックをここにしっかりと書いていくことは承りました。

○村木座長

ほかにご意見はいかがでしょうか。

○榎本委員

131ページ目からの仕組みと体制のところですが、次の検討会でこの計画が確定して、来年度から施策が動いていくのだと思いますが、先ほど小篠委員からもあったとおり、ちょっと規制的なルールをつくとか、制度をつくとか、仕組みをつくとか、パブリックライフもそうだと思いますが、どういう出店者が望ましいのかなどという検討がどこで行われるのか伝わりにくいと思います。それは地域が判断することかもしれませんし、行政が判断することかもしれないですが、そういうルールづくりや制度づくりのようなことが134ページの各主体の役割にも出てこず、推進委員会のところにも出てこないのです、そういう点の言及が必要ではないかと思います。

また、推進委員会も、この文章を読む限りでは、進捗と課題の共有だけなので、率直に言うともメールで十分ではないかと思ってしまいます。もう少しここに魂を入れるというか、ここで札幌らしいパブリックライフとは何かということを議論できる場に設定するとか、まちづくりをここがドライブさせていくような機能をもう少し書き込んだほうがいいのではないかと思います。

ました。

それは中期のアクションプログラムに書かれることかもしれませんが、推進委員会の理念というか意義をもう少し明確にすることと、134ページの各者の役割の制度とかルールづくりについて、エリアマネジメントと行政がすることはきちんと分けて書いておいたほうがいいと思いました。

○村木座長

大事なご意見だと思います。取組の進め方をどうするのかというときに、推進委員会の話もそうですし、各主体の役割ですね。この点については何となく書いているだけに見えるので、しっかりやりますということが分かるような記載を少しご検討いただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○オブザーバー（矢野）

石狩振興局です。

全体を改めて見たときに、1か所だけ気になったところがあります。

125ページですけれども、目標ごとの先導・主要エリアについての説明で、第4章で三つの目標ごとに先導・主要エリアを示したとされていて、下に再掲されているのですが、元のところに先導・主要エリアという言葉がなかったのです。目標1の場合ですと、先導・主要エリアである都市機能強化先導エリアということだと思うのですが、全体を読んでいるときに、ここで行ったり来たりして気になったので、一言入ると分かりやすいと思いました。そこだけはお願ひしたいと思います。

○村木座長

その確認をお願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。

○池田委員

先ほど、榎本委員もおっしゃった134ページです。

先ほど、私はエリアマネジメントのお話をしましたけれども、まちづくりに関わって、企業の人たちは、まちづくりは行政がするもので、企業はそこまで意識がないというお話を随分いただいた経緯があります。

これから実装化していくときに、行政はそういう意識をお持ちでしょうけれども、企業とかエリアマネジメントのところは、ぜひそういう仕組みをつくって、愛着のあるというのが134ページでは抜けていますが、どうしたら愛着を持ってもらえるかということを検討してもらいたいと思います。

前にもお話ししましたが、教育委員のときに、京都の学校では副読本に京都の歴史の本があって、常に子どもたちは京都の歴史を学び、それが観光につながっているということもありましたので、子どもたち、あるいは大人ももちろんそうですけれども、そういうものを伝えられる仕組みをぜひつくってもらいたいと思っております。

○村木座長

企業にとって参画するメリットという言い方は良くないかもしれませんが、どうやって理解してもらうのかという記載や行動をどうしていくかですね。特に、都心は市民よりも企業が多いので、そこがもう少し分かるような記載ですね。

ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○村木座長

それでは、全体を通して何かありませんか。

○島口委員

検討の日程についてお願いがあります。

我々民間からすると、月末というのは非常につらいです。今日は欠席者が多いのはおわかりになりますでしょうか。今日は、月末であるのと、半期の末日なのです。そういうところもあって非常につらいので、できれば日程は月末でないときがありがたいです。ご配慮いただきたいというお願いです。

○村木座長

ほかにありませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○村木座長

それでは、長時間にわたり、ありがとうございました。
進行を事務局にお返しいたします。

4. 閉 会

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

長時間にわたり貴重なご意見をたくさん頂戴いたしまして、誠にありがとうございました。
今日のご意見を受けまして、これからしっかりと庁内議論等を踏まえて進めさせていただければと思います。

また、日程のご指摘をいただきまして、ありがとうございました。

こちらにつきましても、事前の日程調整の中で配慮させていただければと思います。

また、いつものお話ではございますが、議事録につきましては、皆様に内容のご確認をいただきました上で、後日、ホームページにて公開させていただきたいと思います。

また、次回の検討会は令和8年2月頃の開催を予定しておりますが、具体的な日程につきましてはまたご相談をさせていただければと思います。

なお、9月16日に開催しました第5回第一部会の資料につきましては、先日、事務局の杉原からメールにて共有させていただいたとおりで、ホームページにて公開しておりますが、議事録は現在作成中ですので、後日、公開したいと思います。

また、第5回第二部会は10月20日に開催予定ですので、委員の皆様、よろしくお願いいたします。

冒頭に事務局から説明させていただきましたが、この後、庁内の合意形成、意思決定の手続を経まして、議会への報告、パブリックコメントへと進んでまいります。進捗状況につきましても、適宜、皆様に情報共有させていただきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日は以上で閉会させていただきます。

長時間にわたり、どうもありがとうございました。

以 上